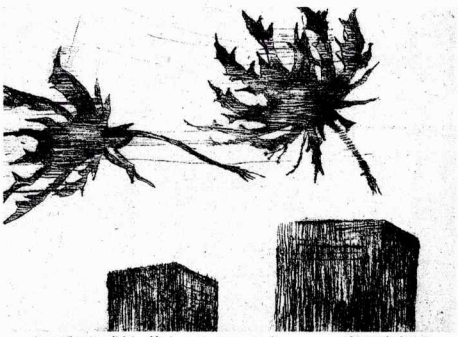
朝日歌壇 俳壇



〈アザミに似た花とマンション〉　岩尾恵都子

短歌時評　セルフケアの詩型

小島　なお

小野茂樹は歌集『羊雲離散』のおぼえがきで、短歌の詩型のことを「整流器」であると書いた。「日常会話の一節ですら完結しがたい日々に、何ごとかを言いおえる世界がどこかにあっていい」と。小野の思いは、情報と言葉の止まない現代を生きる私たちの精神にあらためて共振するように感じる。

風のように渡ろう眠るしまうまの毛の下はまだ燃えているから
加古陽『夜明けのニュースデスク』

は、新聞記者としての取材体験を通じて世界の様相と、歴史を形作ってきた時間の局面を眼差す歌集。長崎の原爆落下中心地を訪れた作で、「しまうま」はゼブラゾーン（横断歩道）を示唆する。歳月の舗装路をめくればすぐ下に、被爆地として苦しむ肉体の熱が息づいているのだと。

暴力から生まれた暴力太郎から生まれた暴力太郎太郎、あたしは
山中千瀬『死なない猫を継ぐ』

は、社会という大きな構造が要請するもの、逃れられない当事者性の歌集である。偶然に女性として生まれたことで、必然にあてがわれるジェンダーの鋳型。生殖や愛にかかわる活動さえも、裏側には暴力が貼りついている。生きることは、暴力を再生産し続ける営みでもあるという。

社会の、世界の、自らの、他者の限りのない苦難を、全て引き受けることはできない。けれど、言葉にせずにはいられない。言葉にすることで、自らを断念し、同時に諦めず社会へ表明する。この世の抱えきれない痛みから、自らの精神を守るセルフケアとしての効能が短歌という詩型には備わっている。（歌人）

風信

大木あまり句集「山猫座」　2015年新年から21年春までの作品を収めた第7句集。「大木家の祖は狼ぞ去年今年」「道つけて行くかに飛べり黒揚羽」（ふらんす堂・3080円）

田丸千種句集「弄花」　2016年から22年までの句を収めた第2句集。「春水満」の項に「麗人と佳人出くはす梅の下」「かき餅がなくなるまでは春火鉢」。（朔出版・2750円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。

高山れおな選

目覚むればしづかな雨や春隣　（高松市）信里由美子
佐々木家を凍らせまいと風呂啗る　（鎌倉市）佐々木　眞
袋から葱の出て居る者同士　（東京都中野区）吉田　徹夫
会陽の夜闇より褌沸いて来し　（玉野市）勝村　博
手袋を外す楽しさ人と会ふ　（千葉市）宮城　治
春立つや光に駆ける牧の馬　（伊万里市）萩原　豊彦
されこうべ持てる自画像冬の星　（東京都渋谷区）胡口　靖夫
大根を甘くおろすは夫のわざ　（東京都杉並区）池野　宗子
茶の花や咲いて峠の明かりけり　（伊賀市）中森　里江
水仙の群れて光を閉じ込めし　（名古屋市）中西　惠子

【評】信里さん。春隣の情趣の表現として意外な新鮮さを感じる。佐々木さん。正確には給湯器が啗るのだが、何にしても健気！　吉田さん。川崎展宏〈熱燗や討入りおりた者同士〉の愉快な脱力化。勝村さん。褌のクローズアップに野趣あり。

小林貴子選

南の雪に暗さのなかりけり　（八代市）山下しげ人
小雪舞う若き葬送阻むよに　（羽曳野市）平尾　幸子
どんな天気も受けるぞ我は冬芽　（金沢市）飯野日々子
顔上げてパジャマの裾を踏む子猫　（寝屋川市）今西　富幸
古コートけふの烈風よろこべり　（横浜市）佐々木ひろみち
海鼠割き外皮以外を捨てにけり　（横浜市）藤木　義弘
ファッションショー毛皮を脱げば水着かな　（甲府市）村田　一広
心などこのまま凍れ今すぐに　（いわき市）馬目　空
寒灯と愛が標や斜面行く　（船橋市）斉木　直哉
大試験過去問なくて苦闘せり　（須賀川市）伊東　地肌

【評】一句目、全天が暗雲に覆われる北の雪空の暗さとの対比で、南国の感じがよく分かる。二句目、若い人の死を悼む思いに、天候も呼応してくれる。三句目、破調の句だが、元気の良い内容が力強い。四句目、こんな子猫にはもうメロメロ。

長谷川櫂選

花たちの春の日を待つモネの池　（習志野市）牧内登志雄
闘ひのうたを中島みゆき春　（葛城市）山本　栄子
獅子も白熊もゐる大相撲　（小平市）野口　佐稔
赤ん坊力士の腕にある四温　（福岡市）釋　蜩硯
アメリカの裸の王を鬼やらひ　（福島県伊達市）佐藤　茂
茅ケ崎は浜あちこちに千鳥かな　（東京都世田谷区）松木　長勝
豪雪や出没難儀雪女　（大津市）戸澤みのる
☆凍滝の音を封じて光りけり　（加古川市）森木　史子
大寒の光を纏ふ牡丹かな　（長崎県波佐見町）川辺　酸模
寒卵考へこんでゐる形　（大阪府島本町）芹澤　由美

【評】一席。睡蓮は夏というのは理屈。花の妖精たち。二席。闘う君をたたえる「ファイト！」。闘わない者は笑うだろう。三席。闘志満々の力士。締まった豹も狼もいて欲しい。十句目。こう見える人もいる。八十億いれば八十億の見え方。

大串章選

凍蝶はアルプス越ゆる夢見つつ　（浜松市）新美　幸二
☆凍滝の音を封じて光りけり　（加古川市）森木　史子
寒昴山家暮しも古稀となり　（小城市）福地　子道
軒氷柱涙となりて落ちにけり　（神戸市）横井　司
古民家の要の古木梅開く　（東京都世田谷区）百瀬　俊夫
凍雲や覇者の言葉を重たくす　（北広島市）軽部　進
旅の夢膨らむ三寒四温かな　（柏市）藤嶋　務
点滴の終わりて寂し冬の夜　（姫路市）山岡　一三
終列車乗らずベンチの雪女　（岡崎市）澤　博史
豆撒きの声の絡みし両隣り　（神奈川県大井町）新井たか志

【評】第1句。凍蝶はそんな夢を見ているのか！　なるほど。作者の明察に脱帽。第2句。凍滝の無音の迫力。「封じて／光りけり」が力強く胸にひびく。第3句。山家から仰ぐ寒昴は格別。古稀、傘寿、卒寿と年を重ねて仰ぎ続けてください。